

「新・構造計算の実務」正誤表

下記箇所に誤りがありましたので、お詫び申し上げますとともに訂正いたします。

- 1) 31 ページ右側 図 2-11 右上単位
誤：L：スパン長 (mm)
正：L：スパン長 (cm)
- 2) 37 ページ中ほど 表 2-12 右側 地震荷重時部分の $1.5 \tau_i$ 単位部分
誤：(N/mm²)
正：(N/cm²)
- 3) 66 ページ左側 表 3-4 中央 ALC 板部分
誤：ALC 板 6.5N/m²
正：ALC 板 (厚 10cm) 650N/m²
- 4) 68 ページ右側 表 3-13 (積雪荷重に乗ずる数値)
下表のとおり

屋根勾配	30°	40°	50°	60° を超える
屋根形状係数 (積雪荷重に乗ずる数値)	0.84	0.71	0.51	0
・積雪荷重の低減(雪止めがある場合を除く)は、令第 86 条 4 項の以下の屋根形状係数(μ_b)による $\mu_b = \sqrt{\cos(1.5\beta)}$ ここに β : 屋根勾配(度)ただし、特定行政庁の定める数値による				

- 5) 73 ページ 右上のコラム エレベータの支持梁の許容応力度は、
誤：鋼材はその破壊強度の 1/4
正：鋼材はその破壊強度の 1/3
- 6) 88 ページ 右側の式
誤： $p_0 = 0.5q + 0.5\{\gamma H_1 + \gamma'(h_0 - H_1) + \gamma_w(h_0 - H_1)\}$
正： $p = 0.5q + 0.5\{\gamma H_1 + \gamma'(h_0 - H_1)\} + \gamma_w(h_0 - H_1)$
- 7) 94 ページ 右側下段 f_s : 中ボルトの許容せん断応力度
誤：(長期 $Lf_s = 11.5\text{N/mm}^2$)
正：(長期 $Lf_s = 90\text{N/mm}^2$)
- 8) 94 ページ 右側下段 ただし、軸断面を用いたせん断応力度に対する許容せん断応力度は
誤： 85N/mm^2
正： 70N/mm^2
- 9) 177 ページ 右側 表 8-4 支持力係数
誤： N_e
正： N_c
- 10) 177 ページ右側の式
誤： $q_a = 2/3 (i c \alpha N_c + \text{略})$
正： $q_a = 2/3 (i c \alpha c N_c + \text{略})$